

# 第2学年〇組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

場 所 家庭科室  
指導者 植竹 智子  
佐藤 ルリ子

## 1 題材名 幼児と触れ合おう A(3)

### 2 題材の目標

- (1) 幼児の生活について関心をもって学習活動に取り組み、幼児の生活をよりよくするために実践しようとする。 (生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造することができる。 (生活を工夫し創造する能力)
- (3) 幼児の生活に関する基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。 (生活の技能)
- (4) 幼児の生活について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 (生活や技術についての知識・理解)

### 3 題材について

#### (1) 題材観

生徒を取り巻く家庭生活は多様化し、著しく変化している。核家族化が進み、共働きや一人親家庭も増加傾向にある。また、少子高齢化の影響もあり、家庭内で幼児と関わる機会が少なくなっている。さらに、人間関係が希薄になっていることもあり、隣近所や親戚などと関わる機会が減っているのが現状である。

「A家族・家庭と子どもの成長」の子どもの成長においては、自分の成長、幼児の発達と生活について理解と関心を深め、幼児に主体的に関わることができるようにするとともに、これからの生活を展望して、課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

そこで、自分の生活が家族に支えられていることや幼児の発達段階に合わせた関わりをすることの大切さに気付かせる。そのために、実践的・体験的な学習活動を通して幼児との関わりへの関心を高めるとともに、習得した基礎的・基本的な知識や技術を生かして、自らの生活をよりよく主体的に工夫する能力と態度を育てたいと考え、この題材を設定した。

#### (2) 手立て（指導観）

本題材では、幼児の心身の発達や遊びの意義を、実際に幼児触れ合い体験を実施することで実感させる。また、体験的・実践的な学習から習得した保育に関する知識や技術を定着させるとともに、それらを活用して自らの家族生活をよりよく工夫し、創造する力を育みたい。まず、幼児の実物大の写真や重さ見本などの教材や視覚的に理解を深めることができる映像を取り入れるなどして、幼児との触れ合いについて関心を高められるようにする。そして、家庭生活の中でも幼児と関わるためのよりよい方法を身に付けることができるよう、幼児触れ合い体験を実施する。生徒の不安を解消できるような事前指導を丁寧に行い、場の工夫をしたり、対象園と十分な打ち合わせを実施したりする。学習の足跡を残すラーニングジャーナルの活用や生徒相互の話し合いによる学び合いの場の設定をすることで、確かな知識の習得とそれを活用する能力を育てたい。

本時では、自分で興味・関心のある課題をもって観察したことを小グループで報告し合い、知識の共有化を図る。その後、実際に遭遇した様々な場面での幼児との関わり方について話し合う。

さらに、よりよい関わり方について意見を交流をすることで、多様な関わり方を知り、自分にもできることや更に工夫できることを実感させながら、ねらいに迫りたい。

#### 4 題材の評価規準

生活生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

#### 5 指導計画

##### (1) 全体計画 (15時間扱い)

- 第1次 ①幼児の心身の発達の特徴を知ろう 2時間  
 ②幼児の遊びについて調べよう 1時間  
 ③幼児の心身の発達に合わせたおもちゃづくりをしよう 3時間
- 第2次 保育所訪問計画を立てよう 2時間
- 第3次 ①幼児と触れ合おう 2時間  
 ②幼児との触れ合いを振り返ろう 1時間 (本時)  
 ③幼児と触れ合おう 2時間  
 ④幼児との関わりをまとめよう 2時間

##### (2) 本時に関わる指導計画及び評価規準

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創 造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
1 次 ①	<p>○キッズ体験や幼児の観察 (ビデオ視聴) を通して、幼児の心身の発達の特徴について理解することができる。</p> <p>・キッズ体験をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           手形コーナー            足形コーナー            運動機能コーナー            身長コーナー            体重コーナー            幼児のからだコーナー            ウォッチングコーナー            ことばコーナー         </div> <p>・キッズ体験を通して幼児の身体の発育や運動の機能、言語の発達の特徴について話し合う。</p> <p>・ビデオを視聴し、幼児の情緒、社会性の発達について特徴をまとめる。</p> <p>・グループで幼児の心身の発達について気付いたことを話し合</p>	<p>①キッズ体験や幼児の観察 (ビデオ) を通して、幼児に関心をもっている。</p> <p>・行動観察 ・ワークシート</p>			<p>①幼児の身体の発育や運動の機能、言語、情緒、社会性について理解している。</p> <p>・ワークシート ・ペーパーテスト</p>

②	<p>う。</p> <p>○幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び方に関心をもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の年齢に応じた遊びの種類について話し合う。</li> <li>・幼児の遊び道具で実際に遊ぶことを通して、幼児の心身の発達に応じた遊び方について考える。</li> </ul>	<p>②幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び方に関心をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ラーニングジャーナル</li> </ul>			
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の心身の発達に合わせたおもちゃづくりをする。</li> </ul>			<p>①幼児の心身の発達に合わせたおもちゃづくりを制作することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ラーニングジャーナル</li> <li>・制作したおもちゃ</li> </ul>	
2次	<p>○自分の課題を設定し幼児の心身の発達に応じた遊び方やかかわり方について工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時までの学習から自分の課題を設定し自分が触れ合う対象児の心身の発達について調べる。</li> <li>・対象児の心身の発達に応じて遊んだり、触れ合ったりする計画を立てる。</li> </ul>		<p>①幼児の心身の発達に応じた遊びや幼児との関わり方について考え工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul>		
3次 ①	<p>○幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心を持ち、幼児の心身の発達に応じた遊び方や関わり方を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題をもって保育所を訪問し、幼児を観察したり、触れ合ったりする。</li> </ul>	<p>③幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心を持ち、適切にかかわろうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・小グループでの話し合い</li> </ul>		<p>②幼児の遊びや心身の発達との関わりについて観点に基づいて観察し整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ワークシート</li> </ul>	
② 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所訪問を振り返り、幼児の心身の発達に応じた遊び方や関わり方が工夫できたかを振り返り、次回の訪問への改善点を見いだす。</li> </ul>		<p>②幼児の心身の発達に応じた遊びや幼児との関わり方について自分なりに工夫したり観察したことを生かして</p>		

③	<ul style="list-style-type: none"> <li>再び、明確になった自分の課題をもって保育所を訪問し、幼児を観察したり、触れ合ったりする。</li> </ul>		考えたりする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>ワークシート</li> </ul>		
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児の観察や幼児と触れ合う活動を通して、幼児の遊びと心身の発達について理解し新聞形式にまとめることができる。</li> <li>・新聞形式にまとめる手順を知る。</li> <li>・自分の課題について保育所の体験を基に家族へのインタビューや資料から得た情報を整理して新聞にまとめる。</li> <li>○新聞発表を通して、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解する。</li> <li>・自分の課題について発表する。</li> <li>・友達の発表から、分かったことをまとめる。</li> <li>・幼児の遊びの意義や幼児との関わり方について話し合う。</li> </ul>		③幼児の心身の発達に応じた遊びや幼児との関わり方について観察したことを生かして新聞にまとめたり、発表したりしている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>行動観察</li> <li>新聞</li> </ul>		①幼児の身体の発育や運動の機能言語、情緒、社会性について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞</li> </ul> ②幼児にとっての遊びの意義について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>発表</li> <li>ワークシート</li> </ul>

## 6 本時の学習

### (1) 目標

- ・ 幼児の心身の発達に応じた遊びや幼児との関わり方について考え、工夫している。

(工・創 行動観察・ワークシート)

### (2) 準備・資料

撮影したビデオ、ワークシート、実習計画表

### (3) 展開

学習内容及び活動	教師の指導と評価
1 前時の保育所訪問を振り返り、本時の課題を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             保育所訪問で観察してきたことをまとめ、幼児との触れ合いを見直そう。           </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 撮影しておいたビデオを見ることで、保育所訪問を振り返ることができるようにする。</li> <li>・ 既習内容を基に、自分の課題について分かったことをまとめることと、幼児との関わり方を見直すことが本時の課題であることを知らせ、課題解決の意欲を高める。</li> </ul>

2 訪問時にもっていた課題ごとに集まり，報告し合う。

**【課題】**

- ・運動機能・手の機能
- ・ことば
- ・社会性（人との関わり方）
- ・遊びの意味
- ・情緒（気持ちの表し方）

3 様々な場面で，幼児に対してどのようにかかわっていたのか，振り返る。

- (1) 小グループで話し合う。
- (2) 全体での意見の交流をする。

**【振り返りの視点】**

- ・うまくいったこと
- ・困ったこと
- ・周囲の大人の関わり方で参考になったこと
- ・改善した方がよいこと

4 学習を振り返り，自己評価を行う。

- ・同じ課題をもつ生徒を4人グループに分け，小グループでの意見交換ができるようにする。
- ・それぞれの課題について，観察から気付いた内容を具体的に自分の言葉で表現するよう，助言する。
- ・友達の報告を聞いて，自分では気付かなかったことがある場合には，多様な見方があることに気付かせ，メモを取るように伝える。
- ・これまでに学習した発達段階との関わりを想起させ，実体験を基に理解させる。

- ・課題についての報告から分かったことを，幼児への関わり方の中で生かすように伝える。
- ・幼児に関わるのが苦手な生徒も，グループ内で悩みを共有し，少しでもうまく関わる方法を見いだせるよう，生徒同士でアドバイスさせる。
- ・各班から出た意見の交流を通して，これまでよりもよりよい関わり方があることに気付かせたい。
- ・意見の交流の中で必要があれば，幼児のためになる関わり方の紹介をすることで，さらに実践の意欲を高めたい。

○ 幼児の心身の発達に応じた遊びや幼児との関わり方について考え，よりよい関わり方を工夫している。

（工・創 行動観察・ワークシート）

- ・学習の振り返りとして，再度保育所訪問を行う際にどのように幼児と関わるかをまとめることで，実践意欲を高める。
- ・前回の保育所訪問から継続した課題，今回新たな課題，どちらにしてもかまわないことを伝え，さらに幼児の観察の意欲を高めたい。